

外国語教育メディア学会（L E T）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

2016年度 12月例会のご案内

日 時： 2016年 12月11日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： L E T会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・無料
京都外国語大学英語教育研究会会員・・・・300円
学生・・・・200円
一般・・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（京都外国語大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：10～ 受付
13：30 開会

批判的思考力の始源をバフチンの外在性に求める

京都教育大学 西本有逸

私は英語教育実践には人文科学的な思考によるアプローチも必要である、と考えております。教育界が処方箋とハウ・ツーに流される今日、骨太な教育思想こそが教員と生徒の動機づけに資するのではないのでしょうか。今回は、旧ソ連の20世紀最大の文芸学者ミハイル・バフチンの外在性を取り上げ、批判的思考力の始源として定位させます。外在性とは「自己と他者を時間的、空間的、意味的、価値的に区別し、それぞれを特徴づけ、決して融合することのない根源的な断絶を約束するものであり、自己と他者の唯一無二な存在を保証してくれるもの」です（西本 2016: 81）。

中学校検定教科書を使用し、批判的思考力を涵養する具体的な活動を参会の方々と考えます。

途中休憩

クリティカル・シンカーを育てたい

京都教育大学附属高等学校 佐古孝義

クリティカルに考えるとは、『早まることなく、細部にも関わって、複数の視点で、吟味し、問い、よく考えること』を意味します。critical とは（つまり「批判的」というのは）、第一にその対象となる言論を否定することや非難することに直結して理解されるべきものではありません。クリティカル・シンカーとは、他人を批判しがちな人物を指す言葉でもありません。クリティカルに考えるとは、必ずしも否定や非難を導く思考ではなく、明確に区別し、吟味する思考を指すもので（あるべきで）す。そうしたクリティカル・シンカーを、「英語の」「授業で」育てるにはどうしたらよいのでしょうか？

私には、未だその明確な答えが見つかっておりません。授業変革元年の年に、ワークショップ形式で、参加者の皆様と考えたいと思います。それこそがまさに「クリティカルに考える」ことのひとつの実践になるはずです。

17:00 閉会

お願い： 最近、メールアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても100名分以上が戻って来ます。今後、メールアドレスを変更される場合は juichisuzuki0011@gmail.com までお知らせください。

今後の予定

1月 8日（日）例会 於）京都教育大学

- ・小中ジャンプを考える：発話と概念の拡がりをめざして（西本有逸）
- ・小学校英語で大切にしたいこと：指導案作成から授業実践まで

（京都教育大学附属京都小中学校 水野和弘）

3月18日（土）・19日（日）

第23回中学高校教員のための英語教育セミナー 於）キャンパスプラザ京都